別記様式第４号

2020 年度 独創的研究助成費 実績報告書

２０２１年　３月　２９日

報　告　者	学科名	デザイン工学科	職 名	教授	氏 名	向山　徹
研 究 課 題	閑谷学校の歴史的・文化的価値に関する研究２－デジタル表現による建築と自然の領域構造の可視化					

研 究 組 織		氏　　名	所 属 ・ 職	専 門 分 野	役　割　分　担
	代表	向山　徹	デザイン学部・教授	建築意匠論	総括・調査・意匠的考察
	分担者	河田　智成 衛藤　翔平	広島工業大学・教授 衛藤建築設計室	建築史 建築設計	歴史的考察 調査・資料作成

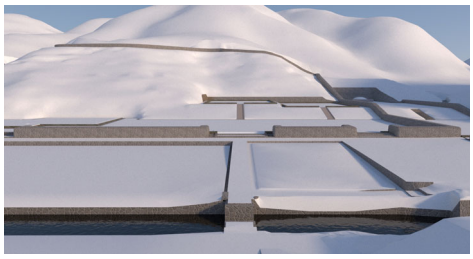
研究実績の概要

（研究の目的と概要）

本研究の目的は、閑谷学校構内全体を自然の地形と水利の遺構としての石がつくる「雨の器」と捉え、器に染み渡る「水」の諸相がつなぐ「学びの場」形成の様相を明らかにすることである。今年度は、既往の実測資料及び現地調査（実測・写真撮影）により、地表面の石の遺構をより詳細にモデリングし、地盤調査・実測調査データを上記モデルに重ね合わせ、地形と石がつくる環境技術としての「雨の器」の断面構造モデリングとして可視化し、「学びの場」の領域形成のあり方を探った。

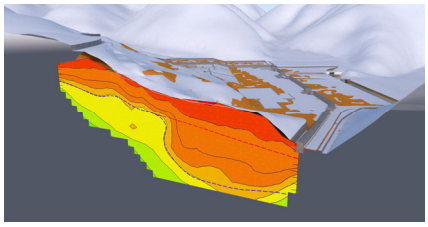
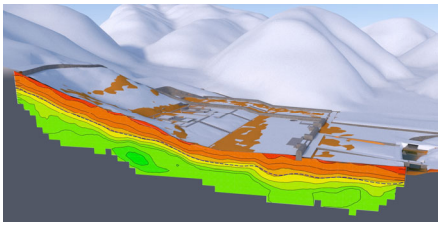
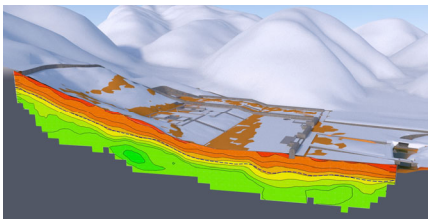
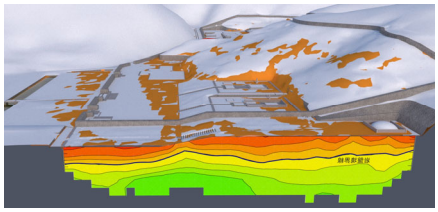
１．石と地形に沿った水の諸相

岡山県教育委員会による「特別史跡旧閑谷学校保存管理計画書」（以下「保存管理計画書」）に所蔵の地形測量図[4]、及び国土地理院の地形データをもとに、閑谷学校構内及び周辺の地形をモデリングした。次に現地調査を行い、建築基壇・水路・石塀・石積・石垣・吸い込み井戸等の石の遺構をできるだけ詳細にモデリン



泮地にかかる石橋を渡り、聖廟に至る南北の軸線。

領域を横断する水路。椿山から神社・聖廟方向を見る。

成果資料目録	**２．　地盤構造から見た領域の形成** 弾性波探査により、４か所の側線毎の断面図が得られ、それぞれの領域の形成過程を推定することができた  地盤構造１　火除山  地盤構造２　講堂・広庭・石塀・泮地  地盤構造３　聖廟・広庭  地盤構造４　椿山・御納所
研究発表等	2020 年度日本建築学会中国支部研究発表会（2021 年 3 月 6 日）にて発表